

(別添)

東京共済病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定

【東京共済病院の基本情報】

医療機関名：国家公務員共済組合連合会 東京共済病院

開設主体：国家公務員共済組合連合会

所在地：東京都目黒区中目黒 2-3-8

許可病床数：370床

（病床の種別）一般病床331床、療養病床39床

（病床機能別）高度急性期4床、急性期287床、慢性期39床、回復期40床

稼働病床数：370床

（病床の種別）一般病床331床、療養病床39床

（病床機能別）高度急性期4床、急性期287床、慢性期39床、回復期40床

診療科目：内科、消化器科、呼吸器科、腎臓内科、内分泌代謝科、リウマチ科、神経内科、精神科、心療内科、血液内科、外科、乳腺外科、脳神経外科、呼吸器外科、婦人科、整形外科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科、救急科

職員数：

- ・ 医師 92.9人
- ・ 看護職員 289.9人
- ・ 専門職 71.8人
- ・ 事務職員 45.7人

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状

- ・東京都全体と比べると緩やかに高齢化が進み、2025年には高齢化率23.1%となる。
- ・将来推計入院患者数は高齢化の影響から増加が見込まれる。
- ・2025年度必要病床数は2016年度病床数より48床増加する。
- ・急性期医療の提供体制について、複数の医療機関で機能が重複している。
(平成2025年度2,442床過剰)
- ・高度急性期機能298床、回復期機能2,028床、慢性期機能164床が不足している。
- ・緩和ケア病棟を持つ医療機関は日赤医療センター（渋谷区）のみである。

区西南部における機能別必要病床数

	病床報告数 2016年7月	必要病床数 2025年	不足(過剰)数
高度急性期機能	1,194	1,492	298
急性期機能	6,152	3,710	▲ 2,442
回復期機能	1,052	3,080	2,028
慢性期機能	1,537	1,701	164
全体合計	9,935	9,983	48

出典：○東京都福祉保健局 平成28年（2016年）報告 区西南部二次医療圏における医療機能ごとの病床の状況（許可病床）
○東京都福祉保健局 平成37年（2025年）の病床数の必要量等

② 構想区域の課題

- ・急性期機能において7対1病床数が多い。
- ・サブアキュートを地域包括ケア病棟で受け入れる体制が必要である。
- ・ターミナル期の患者が在宅に戻ってきた際に、緩和ケアを在宅で行うための後方支援病床が必要である。
- ・精神の合併症患者の受入先の確保。

③ 自施設の現状

- ・ 当院は、病床数規模からすると目黒区内で3番目に位置しており、一般急性期の他に地域包括ケア病棟、療養病棟を設置し、急性期から回復期・慢性期までの医療に対応するとともに、併設する老人保健施設の介護機能を含め、地域医療・介護の一翼を担っている。

<届出入院基本料>

- ・ 一般病棟入院基本料7対1（331床）
- ・ 療養病棟入院基本料2（39床）
- ・ 特定集中治療室管理料（4床）
- ・ 地域包括ケア病棟入院基本料1（40床）

- ・ 地域医療支援病院

<5疾病5事業>

- ・ 東京都がん診療連携協力病院（乳がん・大腸がん）
- ・ 東京都脳卒中急性期医療機関（t-P A実施）
- ・ 糖尿病地域連携の登録医療機関

- ・ 二次救急医療機関
- ・ 休日・全夜間診療事業実施医療機関
- ・ 東京都地域救急医療センター（当番型）
- ・ 東京都災害拠点連携病院

④ 自施設の課題

- ・ 当院は東京都区西南部医療圏（目黒区、渋谷区、世田谷区）に所在しているが、近隣に多数の急性期病院が存在する急性期医療の供給過多な地域となっており、当院が立地する目黒区内だけでも、当院（Ⅲ群:370床）を含め、国病東京医療センター（Ⅲ群:780床）、東邦大学大橋病院（Ⅱ群:433床）、厚生中央病院（Ⅲ群:320床）、三宿病院（Ⅲ群:244床）の5病院が所在し、激しい競合関係となっている。

- ・ 療養病棟入院基本料1を算定している療養病床39床については、医療区分（密度）の高い患者が8割以上の要件があり、数年来、稼働が極めて低水準のまま推移している。一般病床についても稼働が低調のまま推移しているなか、新たに地域包括ケア病棟を開設したこともあり、療養病床機能の存廃について判断をする時期に至っている。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

- ・現在、目黒区内には当院を含め3病院（東京医療センター、東邦大橋病院）が地域医療支援病院の承認を受けているところであるが、当院は、地域密着型の地域医療支援病院として、開業医との緊密な「顔の見える病診連携関係」の構築を一層推進するとともに、入院治療や専門的治療、救急医療や高度な検査等の機能面の拡充・整備を図り、全ての診療科において良質な医療の提供に努めていく。併せて、救急応需体制の充実も図っていく。
- ・当院は、東京都がん診療連携協力病院（乳がん及び大腸がん）に認定され、手術、放射線治療及び化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療及び緩和ケアを提供する体制を有し、地域のがん診療の中核的な役割を担っている。
乳腺科、消化器科及び消化器外科ばかりでなく、呼吸器科、呼吸器外科、泌尿器科、婦人科、脳神経外科、血液内科、放射線科等における集学的治療の充実・強化を一層推進するとともに、緩和ケア医療、終末期医療の提供体制の確立を目指していく。

② 今後持つべき病床機能

- ・現状の高度急性期（ICU4床）、急性期（一般287床）、回復期（地域包括ケア40床）の病床機能については維持していく。
- ・数年来、稼働が低水準のまま推移している療養病床（39床）の機能については、退院調整や在宅療養支援等の後方連携機能の充実を図り、在宅医療に積極的に取り組んでいる開業医や慢性期主体の病院との連携強化を図ることで対処することとし、平成29年度末を目途に廃止する方向で具体的な検討を加えることとする。
- ・療養病床の廃止後の病棟は、一般病床へ転換のうえ、目黒区内に未整備となっている緩和ケア病棟（20床程度）として整備することを考慮し、それに向けた具体的な検討や準備を進めることとする。このことにより東京都がん診療連携協力病院（乳がん及び大腸がん）にふさわしい病床機能の整備が図られることとなる。

区西南部におけるがん診療病院の状況

東京都がん診療連携拠点病院

目黒区	東京医療センター
渋谷区	日赤医療センター

東京都がん診療連携協力病院

目黒区	東京共済病院	大腸がん、乳がん
	東邦大学 大橋病院	胃がん、大腸がん、肝がん
渋谷区	J R 東京総合病院	肺がん、大腸がん、乳がん
世田谷区	関東中央病院	胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、前立腺がん

③ その他見直すべき点

- ・療養病床を廃止した際には、退院調整や在宅療養支援等の後方連携機能の充実を図り、在宅医療に積極的に取り組んでいる開業医や慢性期主体の病院との連携強化を図る。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4 機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	4	→	4
急性期	287		326
回復期	40		40
慢性期	39		
(合計)	370		370

<具体的な整備計画>

- ・ 地域に不足する緩和ケア医療の充実を目的とし、緩和ケア病棟を新設する。
- ・ 既存の療養病床39床を一般病床に転換する。
- ・ 一般病床のうち20床程度を緩和ケア病床として整備する。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	5ヶ年中期計画を策定 (2018年～2022年)	自施設の今後の病床の あり方を決定	集中的な検討を促進 2年間程度で
2018年度	地域医療構想調整会議 における検討		
2019～2020 年度			第7期 介護保険 事業計画
2021～2023 年度	2022年度に中期計画を策定 (2023年～)		第8期 介護保険 事業計画

第7次医療計画

② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

	現在 (本プラン策定時点)		将来 (2025年度)
維持		→	
新設		→	
廃止		→	
変更・統合		→	

③ その他の数値目標について

<p><u>医療提供に関する項目</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介率：50%以上 ・ 逆紹介率：70%以上 <p><u>経営に関する項目*</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医業収支比率：100%以上 <p>その他：</p>
--

* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】
(自由記載)

--